

ファイルサーバー、BOX、Googleドライブなどに蓄積された
自社のあらゆるデータをAIで活用！



ファイルサーバーデータ AI活用ソリューション

設計開発の現場では

長年培ってきた設計標準やデザインレビューのチェック項目、既存製品で発生した過去トラ、FTAやFMEAの分析結果など大量データをAIを使って漏れなく現在の設計開発に活用、再発防止を実現

企画部門の現場では

競合製品の調査資料、お客様のニーズ一覧、企画会議の議事録など、企画段階で用意される大量のデータをAIを使って再利用、検討の効率化を実現

お客様サポートの 現場では

取扱説明書、クレーム対応方針、FAQ、メンテナンス手順など、製品毎に用意される大量のデータを、AIを通して活用し、解決までの時間を短縮

ファイルサーバーデータAI活用ソリューション が解決する課題

1. 過去のノウハウ・ドキュメントが有効活用できていない

企画・設計・開発・生産・品質保証・カスタマーサポートなど各業務の現場において業務ドキュメントは大量に存在するが、大量すぎて必要な情報を得ることが難しい。キーワードを駆使して検索しても、ヒット件数が多すぎたり、ヒットしなかったりするなど、情報を得ることができない。

2. 生成AIを通じたノウハウ活用に対して壁がある

生成AIなど、新しいテクノロジーを通して業務ドキュメントを活用したいが、業務ドキュメントの管理フローや保管場所は既に関連部門含めて決まっており、容易には変更できない。そのため、AI活用のためのシステムを導入しても、そのシステムにドキュメントを格納することが難しい。

3. 各部門のノウハウを部門横断で活用できない

別部門で作成されたノウハウが自部門の改善に有効なケースがあるが、他部門で管理しているドキュメントの保管場所が分からず、部門横断でノウハウを共有・活用することができない。



解決のポイントは
裏面へ！

本ソリューションは、各種ドキュメントの作成・管理のフローや格納場所、ExcelやWord等のフォーマットを一切変更せず、アドオンの的に社内存在するデータを生成AIで活用できるようにするものです。

■ 適用イメージ



■ 課題解決のポイント

① 自社のあらゆる蓄積データを活用

ファイルサーバー、BOX、Googleドライブ、社内ポータル(イントラネット)、Notes内コンテンツを直接AIに参照させることが可能です。強力な検索機能により、利用者は社内のどこに求める文書が格納されているかを知らなくても、必要な情報を得ることができます。データは自動連携するため、二重管理も不要です。キーワードを用いた全文検索だけでなく、分類(タグ)の絞り込み、タグを2~3回クリックするだけですばやく探し出すことが可能です。また、社内にはアクセスできない関連会社や取引先との間で、共有可能な資料に限りナレッジベース上で共有することも可能です。

② 超FAQ®という仕組み

一般的なFAQに加え、マニュアルや仕様書など、業務に必要なあらゆるナレッジを統合的に活用する仕組みを「超FAQ」と呼び提唱しています。既存の文書をAIが参照可能な形でナレッジベースに自動登録し、業務現場での活用を容易にします。ページ数が多い分厚い業務マニュアルもページ単位に分割され、活用できます。

③ AIを活用して情報取得

AIを通して、話し言葉で情報を引き出せます。引き出した情報の出所も明示することで、AIがなぜそのような回答を作成したのかを、該当のデータを参照しながら確認可能です。また、AI利用を容易にするプロンプトのテンプレートを全社で共有し、ナレッジとAIの効果的な活用を促進します。既存のドキュメントから必要な情報を引き出すベテランのノウハウを、プロンプトで形式知化することも可能になります。プロンプトを再利用することでITリテラシーの差を埋め、誰もが業務でAIを活用できます。AI機能はChatGPTをAPI経由で利用しており、社内情報など含むドキュメントがAIに学習されるリスクがありません。

【ドリルダウンナビ®】特許第5993848号 ナレッジベースをタグで分類整理し絞り込み検索を適用したナビゲーション機能

掲載されている会社名、製品名、サービス名、ロゴマークなどは、該当する企業もしくは組織の商標または登録商標です。